

行方不明のお年寄り 5地区で捜索 声かけ訓練

守恒SOSネット

安心してできる
システムを

114人参加



服装などの特徴を参考に捜索訓練をする参加者

行方不明になった認知症のお年寄りを地域で捜索する活動に力を入れる小倉南区の「守恒SOSネットワーク会議」が2日、初の捜索模擬訓練を実施した。地元住民ら114人が参加し、捜し方や見つけた時の

声のかけ方を実践。参加者からは「行方不明になっても安心できる街にしたい」との声が上がった。高齢化率が政令市で最も高い北九州市では、認知症のお年寄りが行方不明になる事案が増えている。守恒

校区まちづくり協議会が昨年9月に設立したSOSネットは、行方不明の連絡を受けると、名前や特徴を900人超の登録者にメールで知らせ、地域の捜索活動につなげている。

この日の訓練は、設定した5地区に行方不明者役をそれぞれ配置。服装や身長、髪形の特徴を基に徒歩で捜したほか、行方不明者役が身につけたGPS（全地球測位システム）を利用した捜索も体験。発見時は大人数で取り囲んで威圧せず、ゆっくり、大きく、優しく話しかけるなど声の掛け方も学んだ。

SOSネットは障害者や子供の行方不明にも対応している。訓練に参加した久保田久美子さん(48)は知的障害がある次男(18)が行方不明になった経験があり「地元こんな捜索システムができて本当に心強い」と歓迎していた。SOSネットの石原和典副会長は「これだけたくさんの方が集まったことに驚いた。意識の高さや認知症への関心の強さを感じました」と話した。

【銭場裕司】